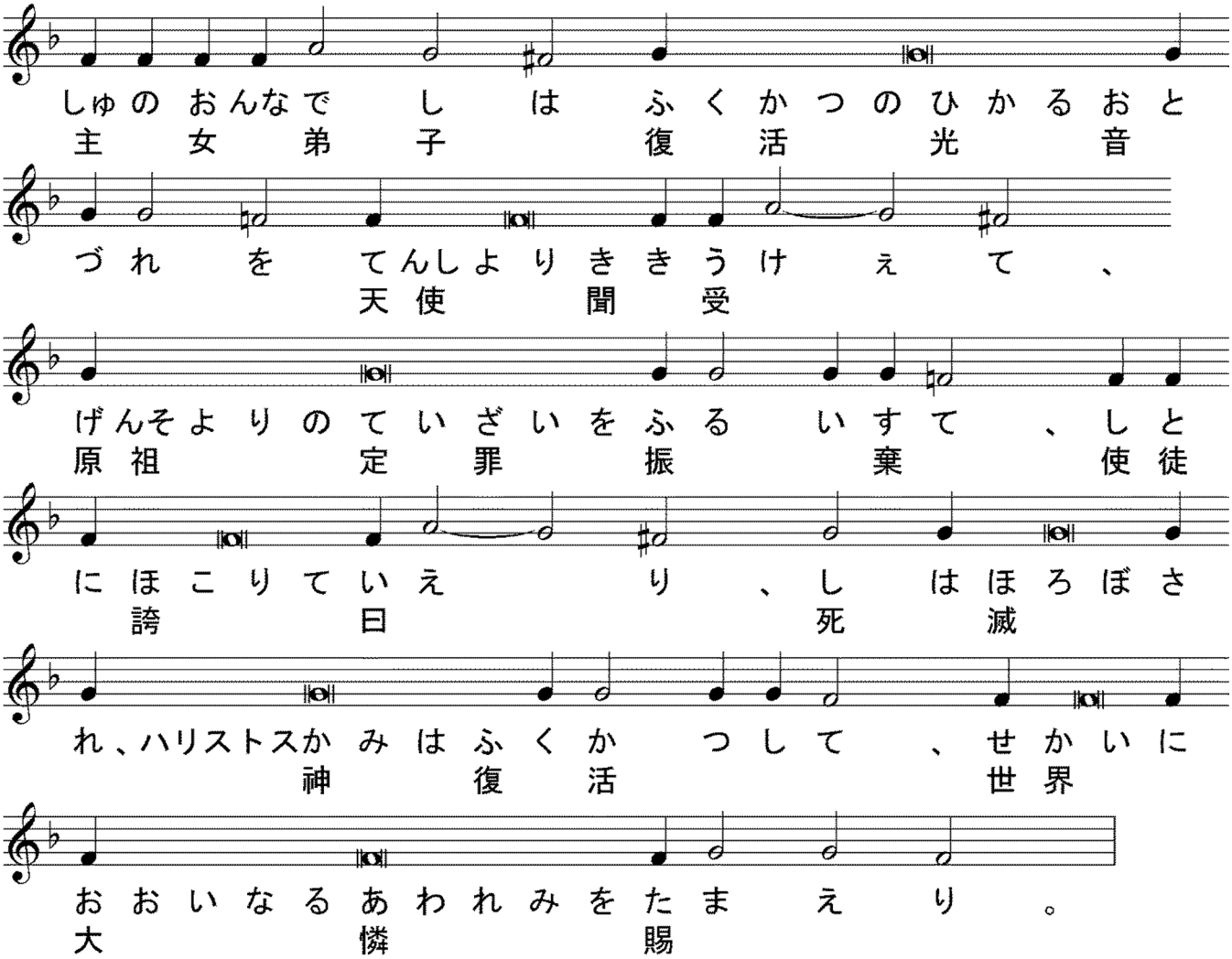
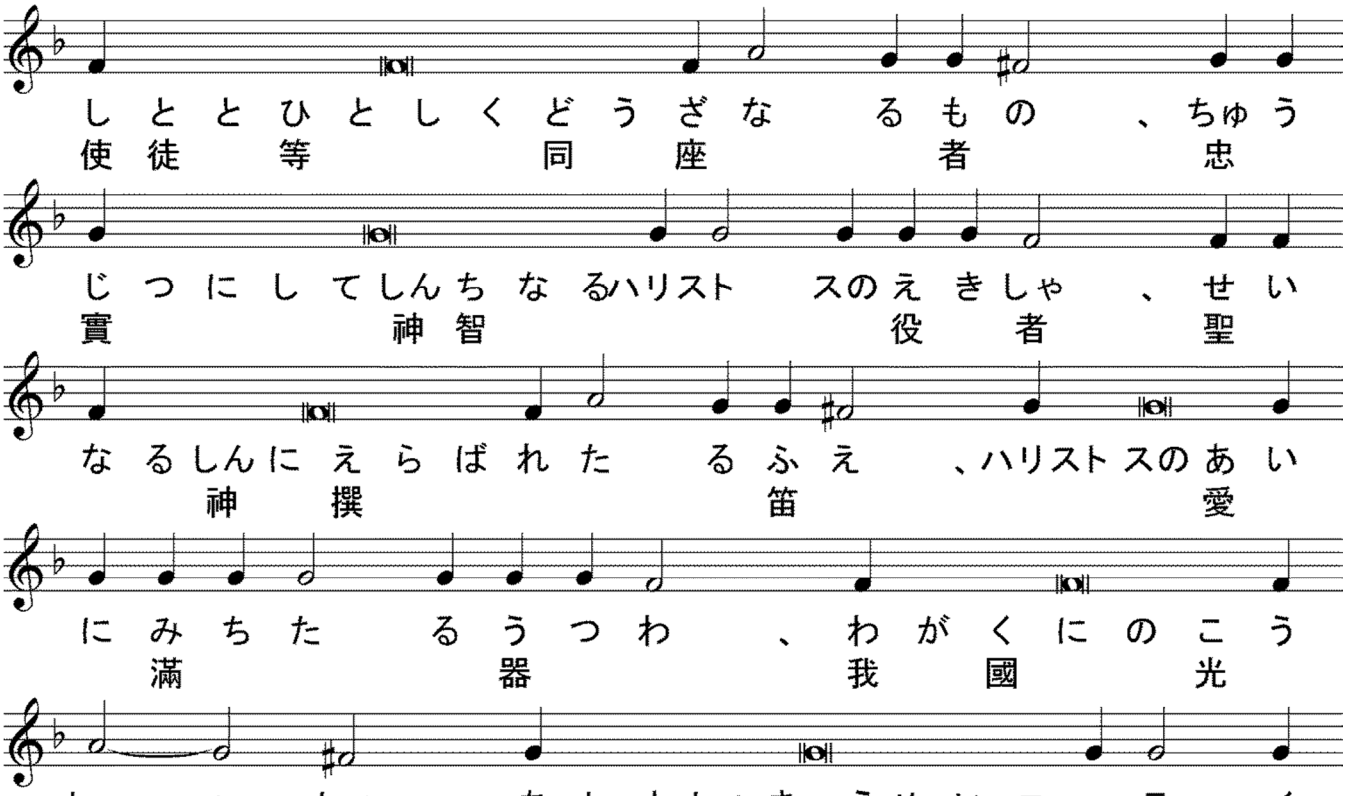
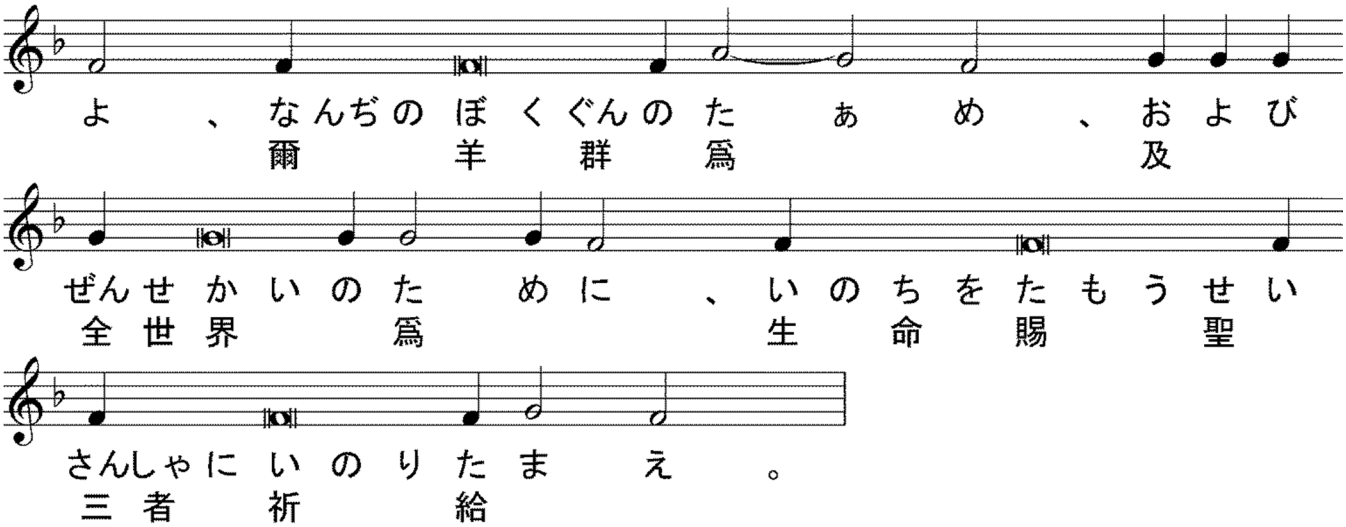
【　復活のトロパリ　第４調　】

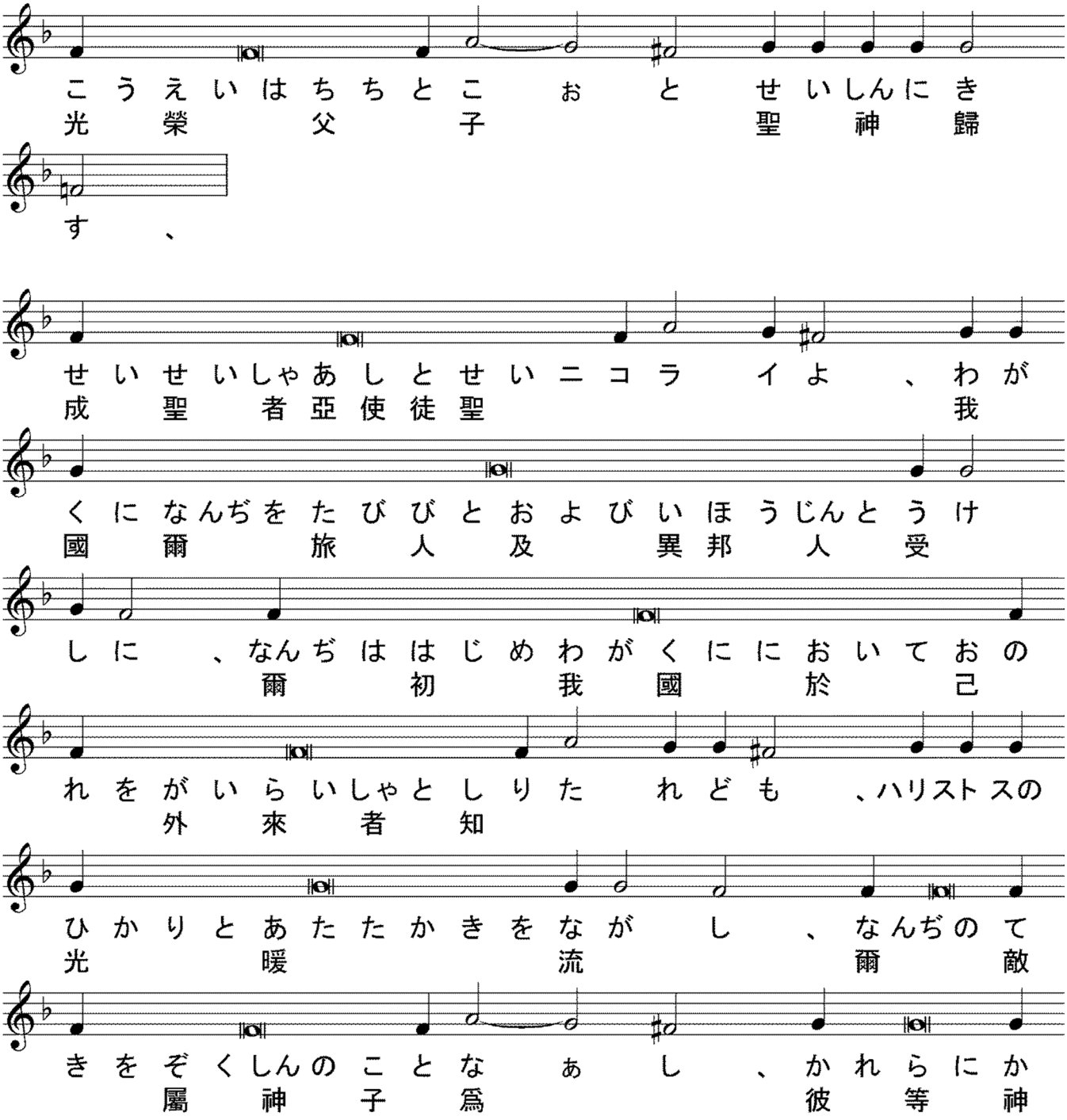


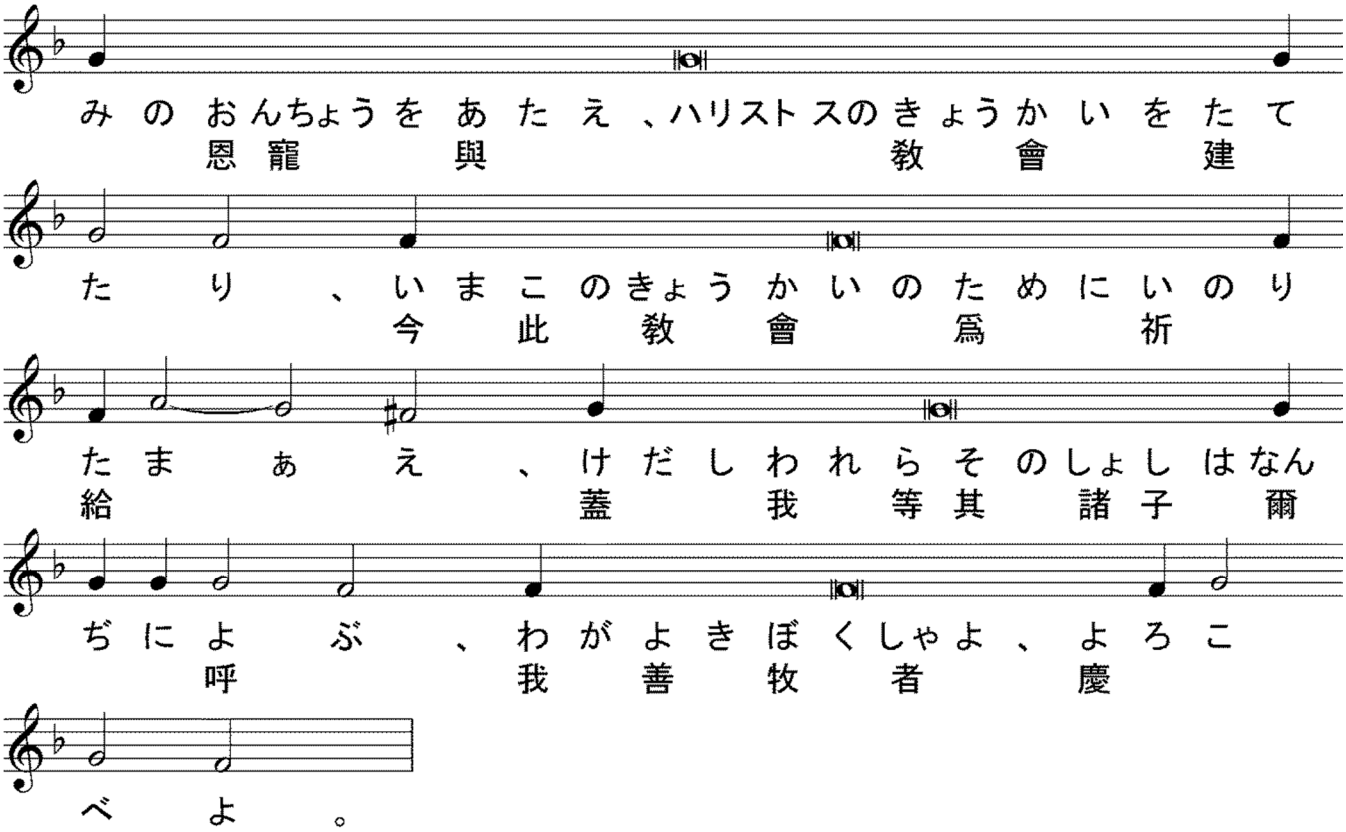
【　日本の亜使徒ニコライのトロパリ　第４調　】



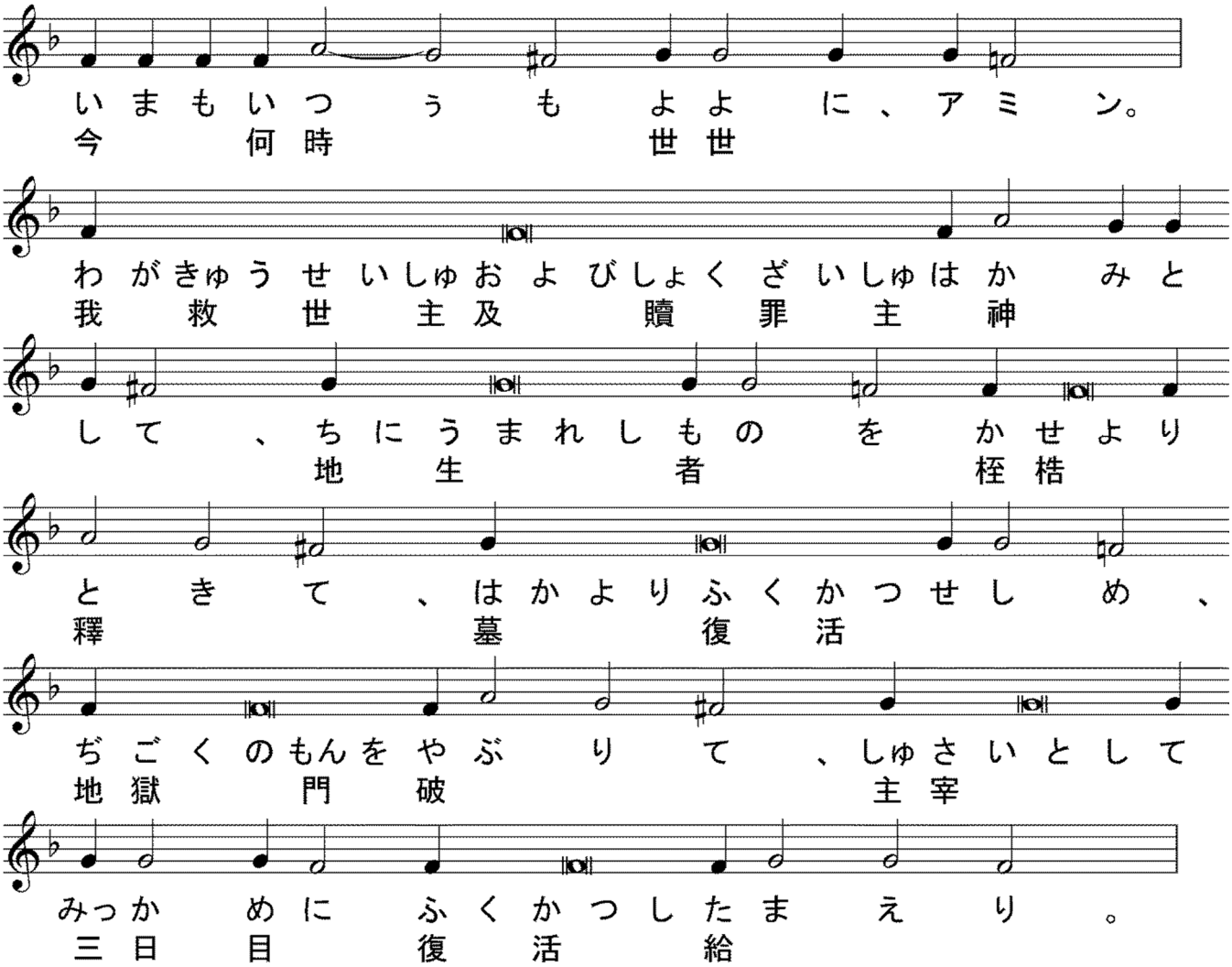


【　日本の亜使徒ニコライのコンダク　第４調　】




みのおんちょうをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて
恩寵與教會建
たり、いまこのきょうかいのためにいのり
今此教會爲祈
たまぁえ、けだしわれらそのしょしはなん
給蓋我等其諸子爾
ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
呼我善牧者慶
べよ。

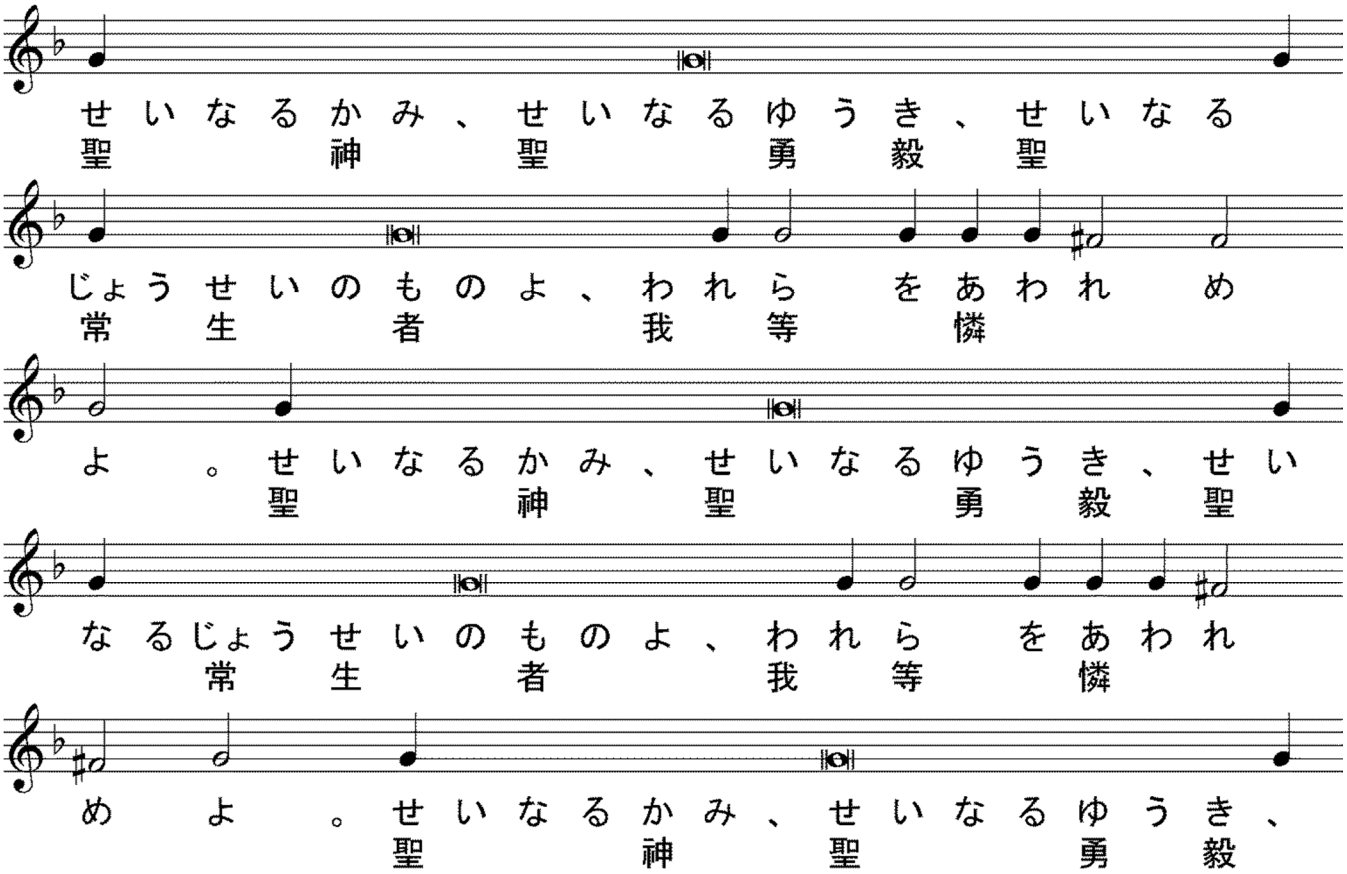
【　復活のコンダク　第４調　】

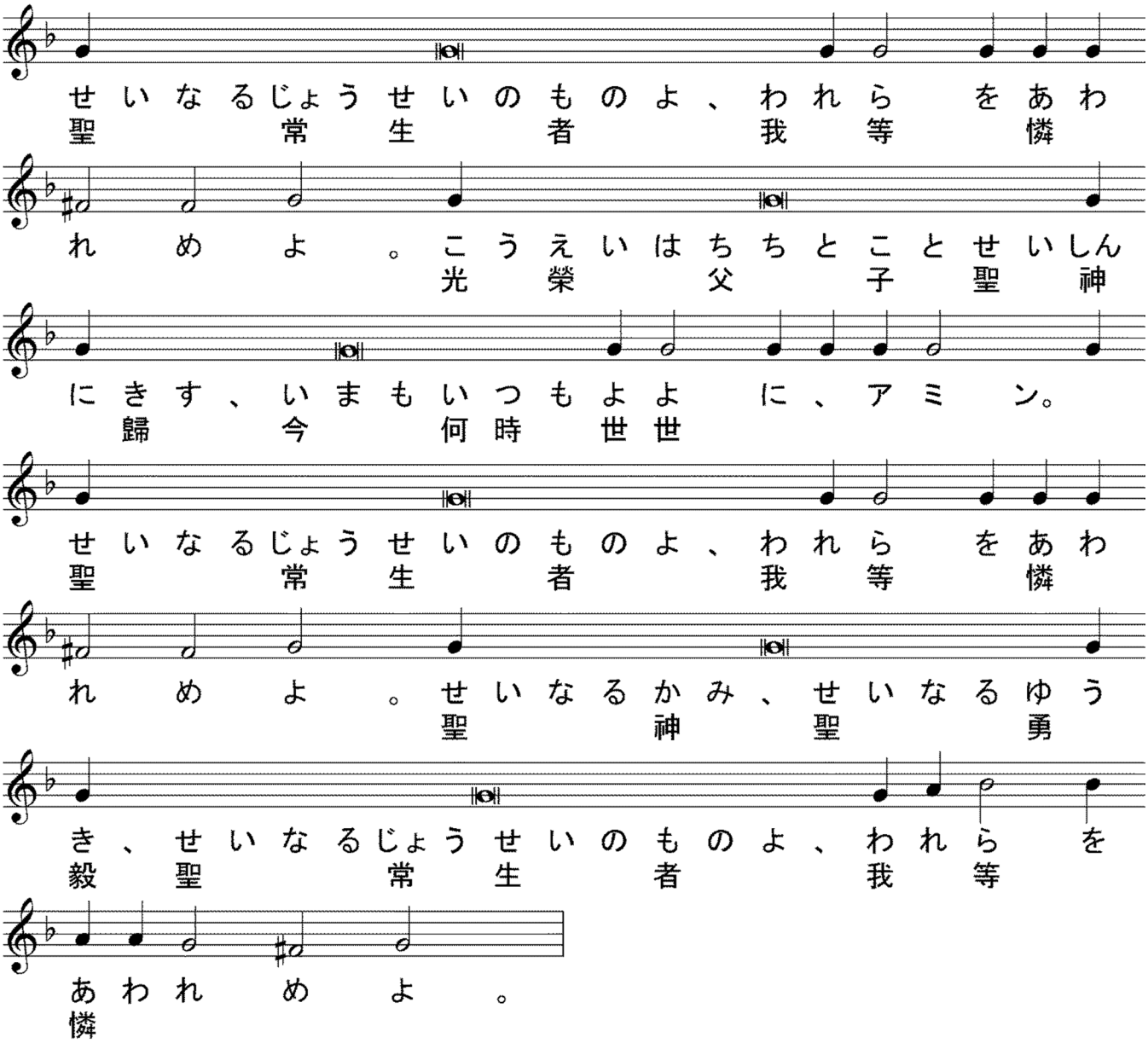

いまもいつぅもよよに、アミン。
今何時世世
わがきゅうせいしゅおよびしょくざいしゅはかみと
我救世主及贖罪主神
して、ちにうまれしものをかせより
地生者桎梏
ときて、はかよりふくかつせしめ、
釋墓復活
ぢごくのもんをやぶりて、しゅさいとして
地獄門破主宰
みっかめにふくかつしたまえり。
三日目復活給

司祭）（ 黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる者となしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 ）

司祭） **蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、**

【 聖三祝文 】





司祭)（ 黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、 ）

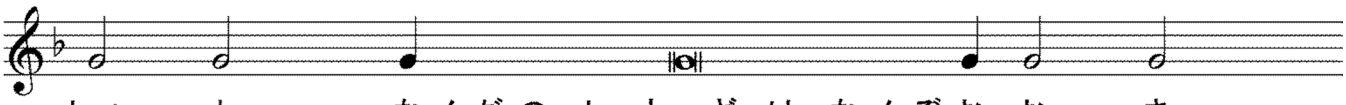
【 提綱 主日第４調 】

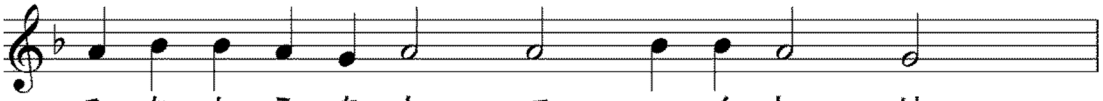
司祭) 愼みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) 爾の神にも、

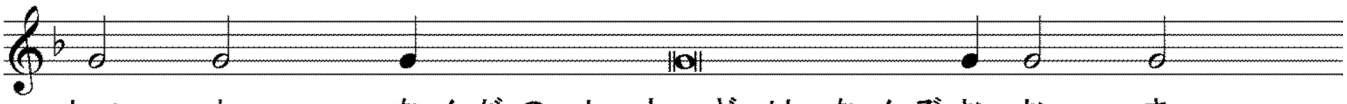
司祭) 睿智、

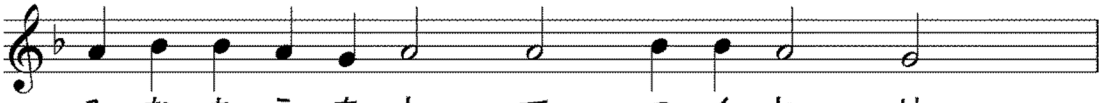
誦經) プロキメン、主よ、爾の工業は何ぞ多き、皆智慧を以て作れり、



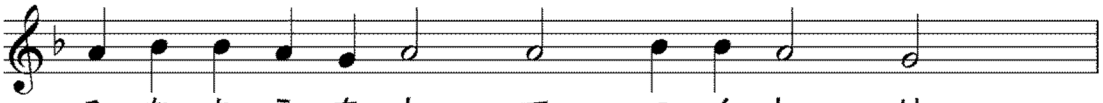


誦經）我(わ)が霊(たましい)よ、主(しゅ)を讃(ほ)め揚(あ)げよ、主(しゅ)我(わ)が神(かみ)よ、爾(なんぢ)は至(いた)りて大(おおい)なり、





誦經）主(しゅ)よ、爾(なんぢ)の工業(しわざ)は何(なん)ぞ多(おお)き、



【 使徒経(アポストロス) 285端 ティモフェイ書4章9〜15節 】

司祭）睿智(えいち)、

誦經）聖使徒(せいしと)パヴェルがティモフェイに達(たつ)する前書(ぜんしょ)の讀(よみ)、

司祭）謹(つつし)みて聽(き)くべし、

誦經）子(こ)ティモフェイよ、此(こ)れ信(まこと)なる全(まった)く受(う)くべき言(ことば)なり。蓋(けだし)我等(われら)は此(これ)が爲(ため)に勞(ろう)して謗(そしり)を受(う)く、乃(すなわち)活(い)ける神(かみ)に望(のぞみ)あるに因(よ)りてなり、彼(かれ)は悉(ことごと)くの人(ひと)、特(こと)に信者(しんじゃ)の救主(きゅうしゅ)なり。爾(なんぢ)此等(これら)の事(こと)を戒(いましめ)め且(かつ)教(おしえ)よ。人爾(ひとなんぢ)の年少(としわか)きを以(もつ)て輕(かろ)んずべからず、乃爾(すなわちなんぢ)言(ことば)に、行(おこない)に、愛(あい)に、神(しん)に、信仰(しんこう)に、潔淨(けつじょう)に於(おい)て、信者(しんじゃ)の模範(もはん)と爲(な)れ。讀書(とくしょ)と、勸諭(かんゆ)と、教訓(きょうくん)とを、務(つと)めて、我(わ)が來(きた)るを俟(ま)て。爾(なんぢ)に在(あ)る恩賜(おんし)、預言(よげん)に由(よ)りて、長老(ちょうろう)の按手(あんしゅ)を以(もつ)て、爾(なんぢ)に授(さづ)けられし者(もの)を忽(ゆるかせ)にする勿(なか)れ。此等(これら)の事(こと)を思念(しねん)し、專(もつぱ)ら之(これ)を務(つと)め、爾(なんぢ)の上(じょうたつ)達(たつ)が衆(しゅう)に顯(あらわ)れん爲(ため)なり。

＊＊

（比較用　口語訳）子テモテよ、これは確実で、そのまま受けいれるに足る言葉である。わたしたちは、このために労し苦しんでいる。それは、すべての人の救主、特に信じる者たちの救主なる生ける神に、望みを置いてきたからである。これらの事を命じ、また教えなさい。あなたは、年が若いために人に軽

んじられてはならない。むしろ、言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい。わたしがそちらに行く時まで、聖書を朗読することと、勧めをすることと、教えることとに心を用いなさい。長老の按手を受けた時、預言によってあなたに与えられて内に持っている恵みの賜物を、軽視してはならない。すべての事にあなたの進歩があらわれるため、これらの事を実行し、それを励みなさい。

＊＊

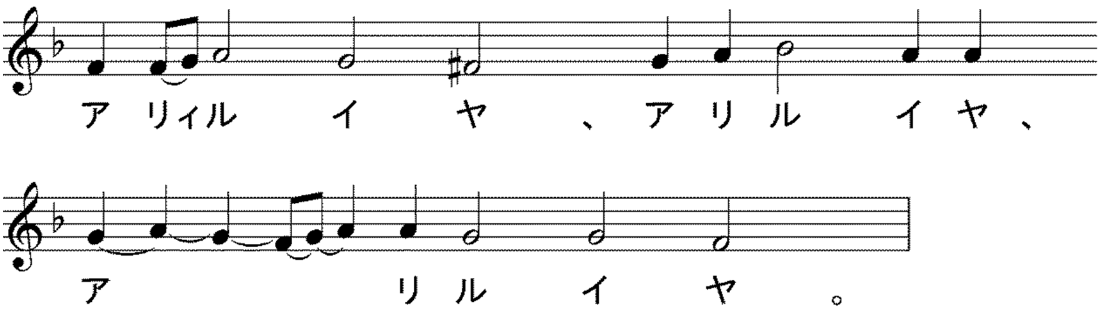
【　アリルイヤ　主日第４調　】

司祭）爾(なんち)に平安(へいあん)、

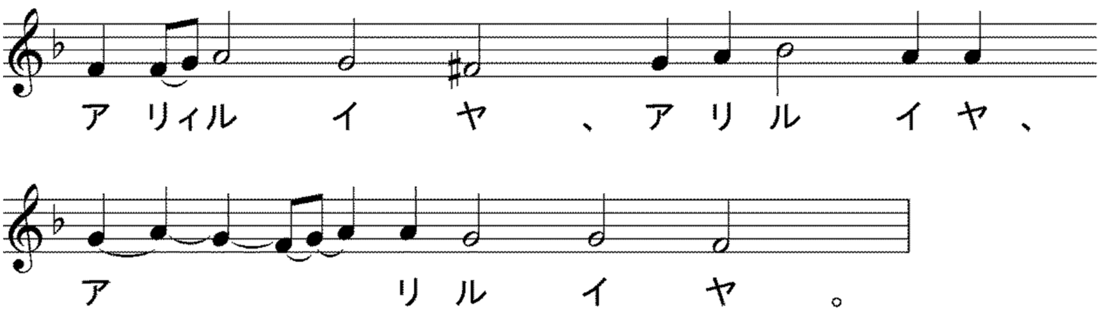
誦經）爾(なんち)の神(しん)にも、

司祭）睿智(えいち)、

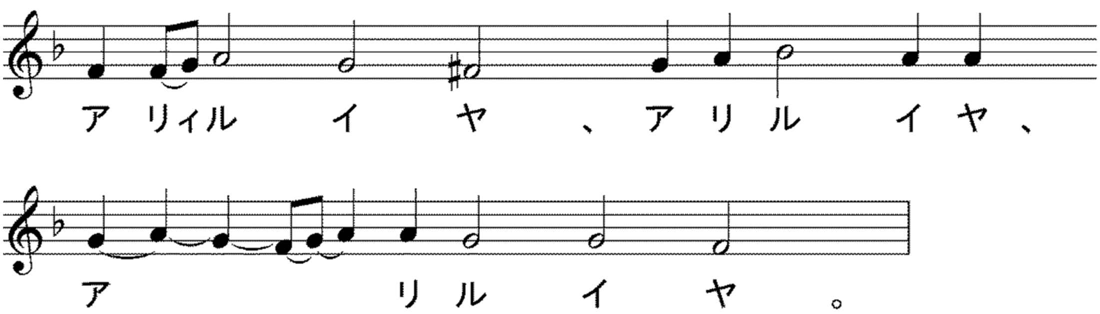
誦經）アリルイヤ、



誦經）神(かみ)よ、爾(なんち)の寶座(ほうざ)は世世(よよ)に在(あ)り、爾(なんち)の國(くに)の權柄(けんぺい)は正直(せいちょく)の權柄(けんぺい)なり、



誦經）爾(なんち)は義(ぎ)を愛(あい)し、不法(ふほう)を惡(にく)めり、

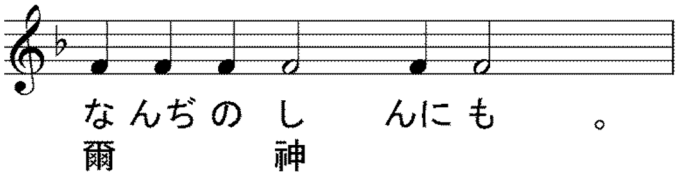


司祭）（　黙誦：人(ひと)を愛(あい)する主宰(しゅさい)よ、我(わ)が心(こころ)に神(かみ)を知(し)る智慧(ちえ)の浄(いさぎよ)き光(ひかり)を輝(かがや)かし、我(わ)が思(し)

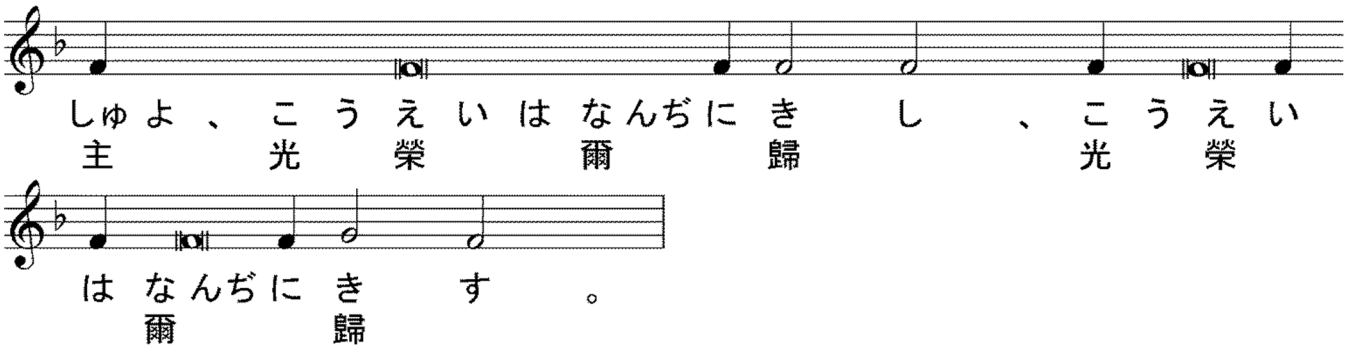
念の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誡を畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。　）

【　福音經（エヴァンゲリオン）　ルカ福音書91端　18章18〜27節　】

司祭）睿智、肅みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、



司祭）ルカ傳の聖福音經の讀、



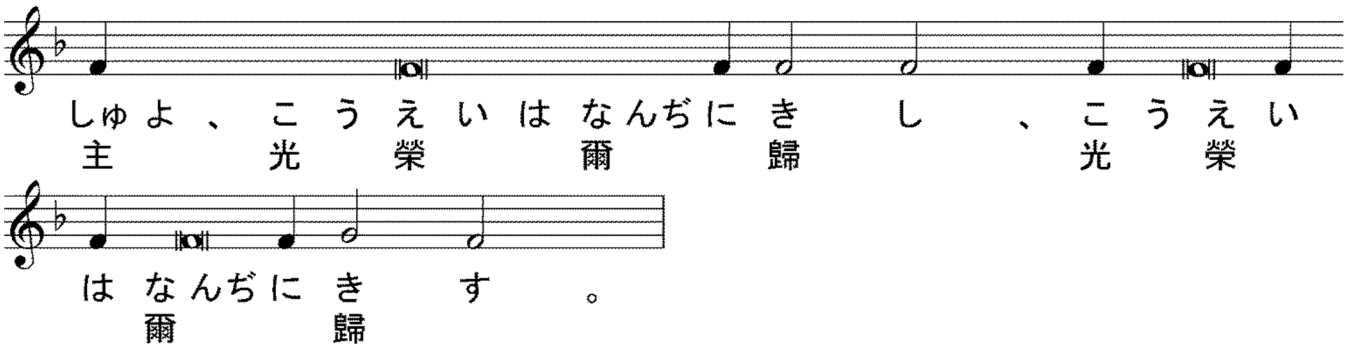
司祭）謹みて聽くべし、彼の時イイスス イェリホンに入りて過ぎ行けり。視よ、ザクヘイと名づくる者あり、税吏の長にして富める者なり。イイススの如何なる人たるを見んと欲したれども、人の衆きに因りて見るを得ざりき、身の長短ければなり。乃趨り前みて、彼を見んため無花果樹に升れり、彼此の旁を過ぎんとすればなり。イイスス此の處に來りし時、仰ぎて、之を見て曰えり、ザクヘイよ、速に下れ、蓋我今日爾の家に寓るべし。彼急ぎ下り、喜びてイイススを接けたり。人皆之を見て、怨みて曰えり、彼往きて罪人の客と爲れり。ザクヘイ立ちて、主に謂えり、主よ、我所有の半を以て、貧しき者に施さん、若し誣いて人より收りしことあらば、四倍にして之を償わん。イイスス彼に謂えり、今日救は此の家に臨めり、此の人もアヴラアムの子なればなり。蓋人の子は亡び

し者(もの)を尋(たづ)ねて救(すく)わん爲(ため)に來(きた)れり。

＊＊

（比較用　口語訳）イエスはエリコにはいって、その町をお通りになった。ところが、そこにザアカイという名の人がいた。この人は取税人のかしらで、金持であった。彼は、イエスがどんな人か見たいと思っていたが、背が低かったので、群衆にさえぎられて見ることができなかった。それでイエスを見るために、前の方に走って行って、いちじく桑の木に登った。そこを通られるところだったからである。イエスは、その場所にこられたとき、上を見あげて言われた、「ザアカイよ、急いで下りてきなさい。きょう、あなたの家に泊まることにしているから」。そこでザアカイは急いでおりてきて、よろこんでイエスを迎え入れた。人々はみな、これを見てつぶやき、「彼は罪人の家にはいって客となった」と言った。ザアカイは立って主に言った、「主よ、わたしは誓って自分の財産の半分を貧民に施します。また、もしだれかから不正な取立てをしていましたら、それを四倍にして返します」。イエスは彼に言われた、「きょう、救がこの家にきた。この人もアブラハムの子なのだから。人の子がきたのは、失われたものを尋ね出して救うためである」。

＊＊



※聖体礼儀③（金口イォアン聖体礼儀）へ